

## 夢実現プロジェクト

日時 令和4年12月5日 3・4校時  
生徒 第5学年20名 第6学年9名 計29名  
授業者 酒井 晋平 岡 真知子  
場所 5・6年生教室

### 1 単元設定の理由

#### 【単元の目標】

- 「地域の人と協力していつも笑顔あふれる福富町」を目標に地域の人に話を聞いたり関わったりすることを通して、地域の人々の町への思いを知るとともに、福富町の実態や現状から自分たちに何ができるかを考え、実行しながら、課題解決に向けて異学年で協働的に取り組む態度を身に付ける。

#### 【児童の実態】

- 総合的な学習の時間に関するアンケートを見ると、「福富町のためにできることがしたい」と感じている児童の割合は高く、福富町を思う気持ちや、取組への意欲が高いことが分かる。しかし、「町について知りたい、学びたいと思う」の項目は他項目と比較すると肯定的評価は低い。何かを行うためには、物事の背景や歴史、関わる人々の思いを知ることが重要である。「やりたい」という思いばかりが先行し、目標や目的がずれる可能性も考えられる。自分たちの思いだけでなく、得た情報を大切に、取組に生かすという能力を高めていく必要がある。

#### 【単元観】

- 本単元は、地域の祭りを生かして町の人を笑顔にする取組を考えることを通して、情報収集や整理・分析する力、主体的・協働的に学ぶ力を養うことをねらいとしている。客ではなく提案側として祭りに参加する際、祭りの歴史や受け継いできた人の思いを知ること、より地域への関心を深めることができると考える。また、地域資源や人材を生かし、「地域の人と共に」という思いをもって学習を進めることで、地域の人々の願いを感じたり、地域の魅力を再発見したりすることもできるであろうと考える。自分たちにできることを地域と共に取り組むことで、地域の一員としてより町づくりにかかわっていきたいという思いを育むことができ、社会参画の力にもつなげることができる単元である。

#### 【指導にあたって】

##### ○地域とつながる

目標を達成するために、自分たちには何ができるかを考える際、まずは地域の祭りである「アクアフェスタ」に着目させる。客ではなく、提案する側として参加することで、自分たちで何かイベントを企画する際に必要な情報が多く得られるようにしたい。また、活動をする際には、自分たちの思いのみで進めるのではなく、他者から思いを聞く場を設定し、得た情報を活用できるようにさせる。アクアフェスタや学習発表会においてインタビューやアンケート等を実施し、感想や疑問、意見等を募ることで、地域の人々の思いも大切にしながら学習を進めていけるようにする。

##### ○友達とつながる

グループ活動の際に、ジャムボードを活用させる。得た情報や自らの考えを書き込むだけでなく、それらを視点に沿って整理したり、分析したりすることで、児童の資質・能力の向上につながることを考える。放課後や長期休みの際、家庭でもジャムボード上で話し合いや準備が進められるようにし、意識を途切らせることなく学習を進められるようにしていきたい。

## 2 単元構想ストーリー

### 【夢の実現プロジェクト f 単元ストーリー】 福富小学校第5・6学年

5 年 生	6 年 生	地域との連携 体験活動・資料	児童の意識 の流れ
	<p>○昨年度の学習を振り返り、課題や今年度どうしていきたいかを考え、5年生に伝えるための準備をする。</p>		<p>○去年は人口減少を抑えるために、移住者に目を向けて紹介しようとしたけれど、魅力を発信することができなかった。今年は地域の人と一緒に町に関わっていきながら発信にもつなげていきたい。</p>
<p>○昨年度の課題や6年生の思いを5年生が聞き、「地域と協力して笑顔あふれる福富町」を目指すためにできることを考え、グループに分かれる。その際、「笑顔あふれる町」のイメージを明確にし、全体で共有することで、同じ目標に向かって活動に取り組めるようにする。今年度はより自分事として町に積極的にかかわるため、「自分たちがよりよい町づくりに貢献する」という視点を持ち、できることを考え、計画を立てる。</p>		<p>&lt;資料&gt; ・人口減少についてのスライド ・昨年度の動画</p>	<p>○地域の人を巻き込んで「笑顔あふれる福富町」にするために、どんなことができるだろうか。</p>
<p>各グループでの活動</p>		<p>&lt;地域との連携&gt; ・情報源にあたる人 魅力をつくる人 福富の伝統を継ぐ人 など</p>	<p>○福富町をきれいにしたり、自分たちがイベントに参加して盛り上げたり、福富町をアピールしたりすることで、笑顔あふれる町に近づかないかな。</p>
<p>○グループによって発表や展示等を計画し、アクアフェスタに参加する。今年度企画側での参加が難しい場合、客として参加をし、アクアフェスタで情報を収集する。</p>			<p>○いろいろやってみたけれど、他の人は自分たちがしたことをどう思ったのかな。聞いてみたい。</p>
<p>○アクアフェスタでの成果や課題を踏まえ、学習発表会において学習の中間報告を行い、保護者に伝える。</p>		<p>&lt;地域との連携&gt; 保護者にアンケート</p>	<p>○聞いたことから改善点が見つかった。次こそ地域の人を巻き込んでぼくたちの手で笑顔あふれる町にしていくぞ。</p>
<p>○アクアフェスタでの経験や保護者からの意見をもとに、児童主催でのイベントを企画、開催する。</p>		<p>&lt;地域との連携&gt; お世話になった方々や支所の人など</p>	<p>○地域の人と一緒に「笑顔あふれる福富町」をこれからも作っていききたい。【地域】</p>
<p>○探究的な学習の結果や地域の方の思いや願い等を整理し、今年度の学習を基に、来年度のよりよい方向性へ向けてまとめをする。</p>			<p>○この学習を通して、これからの役立ついろいろな力を伸ばすことができた。【生き方】</p>
<p>○1年間の学習を通して身についた資質・能力についてまとめる。</p>			<p>○来年度は今年度の課題をもとにまた何ができるか考えていきたい。</p>
<p>○今年度の成果や課題、6年生からの思いを引き継ぎ、次年度の5年生へ伝える準備をする。</p>			

めざす児童・生徒像

「地域に住む人とともに笑顔あふれる町づくりをしたい」という思いを持ち、自分たちにできる活動を考え、実行することを通して、この町に住む人々の思いや願いに気づき、福富町をよりよくしていきたいという意識を高めるとともに、学びを自らの生き方につなげようとする児童

### 3 単元の評価観点・評価規準

		A	B
知識 技能	① 知識	○地域で開かれる祭りやイベントの歴史や特徴等について知るとともに、 <u>関わる町の人々の思いや願いについて理解している。</u>	○地域で開かれる祭りやイベントの歴史や特徴等を知っている。
	② 技能	○課題解決のために適切な方法を使って調べたり情報をまとめたりするなど、 <u>目的意識をもって活動を進めることができる。</u>	○課題解決のために適切な方法を使って調べたり、情報をまとめたりしながら活動を進めることができる。
	③ 探究的な学習のよさの理解	○活動を通して身に付いた資質・能力は、笑顔あふれる福富町をつくるために、 <u>実現が可能となるよう探究的に活動してきたことの成果である</u> と気付いている。	○活動を通して身に付いた資質・能力は、笑顔あふれる福富町をつくろうと活動した成果であると気付いている。
思考 判断 表現	① 課題の設定	○「町の人と協力していつも笑顔あふれる町」にするために何ができるか考え、 <u>課題解決に向けて見通しをもって活動の計画を立てることができる。</u>	○「町の人と協力していつも笑顔あふれる町」にするために何ができるか考え、活動の計画を立てる。
	② 情報の収集	○設定した課題の解決方法について、地域の人や現地の様子を調査するだけでなく、 <u>他地域と比較し、情報収集することができる。</u>	○設定した課題の解決方法について、地域の人や現地の様子を調査し、情報収集することができる。
	③ 整理・分析	○収集した情報を分類しながら整理し、 <u>分析した結果をよりよく生かすことができる。</u>	○収集した情報を分類しながら整理し、分析することができる。
	④ まとめ・表現	○アクアフエスタや自分達主体の行事の成果と課題について <u>見る人が分かりやすいように工夫してまとめ、発表することができる。</u>	○アクアフエスタや自分達主体の行事の成果と課題についてまとめ、発表することができる。
主体的に学習に取り組む態度	① 自己理解・他者理解	○他者との意見交流の際、他者の意見を受け入れ、 <u>自分の意見と他者の意見のよさを生かそうとしている。</u>	○他者との意見交流の際、他者の意見を受け入れようとしている。
	② 主体性	○課題解決に向けて、見通しをもち、自分で目標を立てながら <u>広い視野で学習に取り組もうとしている。</u>	○課題解決に向けて、見通しをもち、自分で目標を立てながら学習に取り組もうとしている。
	③ 協働性	○他者の意見と自分の意見を比較し、自分の意見を客観的に捉え、 <u>自他のよさを生かしながら協力して課題解決に取り組もうとしている。</u>	○他者の意見と自分の意見を比較し、自分の意見を客観的に捉えながら課題解決に取り組もうとしている。
	④ 将来展望・社会参画	○地域の課題の解決に自分事として取り組み、 <u>地域や自分の未来をよりよいものになりたいと考えることができる。</u>	○地域の課題の解決に自分事として取り組み、地域や自分の未来について考えることができる。

#### 4 単元計画（全70時間）

小単元 (時数)	小単元の目標と主な学習内容 ◎ねらい ○学習内容	評価の観点 (評価方法)	教科・特別活動 等との関連
※6年生のみ 1 (2時間) 課題設定の準備	◎昨年度の成果と課題から、今年度の総合的な学習の時間の目標を考えよう。 ○昨年度の学習について、成果や課題を振り返る。 ○自分たちが本当にしたいこと、目標とすることを考え、5年生に伝える準備をする。	思①・③（発言、プレゼン）	
2 導入・課題設定 (8時間)	◎地域と協力して、笑顔あふれる町を作るために、自分たちにできることを考えよう。 ○6年生のプレゼンから昨年度の活動内容、成果や課題について知り、今年の活動について見通しをもつ。 ○「笑顔あふれる町」についてイメージを共有する。 ○自分たちにできることを様々な視点から考える。 ○目的を達成するための方法を選ぶ。	思①（発言、振り返り）	〈6年社会〉 憲法と私たちの暮らし
3 展開① まとめ・表現 (16時間)	◎福富町最大の祭りアクアフエスタに、自分達が考えた活動で参加しよう。 ○アクアフエスタでどんな活動ができるかを考える。 ○アクアフエスタのことやそれに関わる人々の思いについて調べ、情報の取捨選択や整理・分析しながら調べ学習を進める。必要に応じて地域調査を計画・実行する。 ○他地域の祭りや活動を調べ、自分たちの活動に取り入れる。 ○アクアフエスタに参加する。	知①（発言、振り返り） 知②（発言、ワークシート、振り返り） 思②（行動観察、ジャムボード、振り返り） 主①（行動観察、振り返り）	〈6年道徳〉 「白神山地」 C-19 自然愛護 〈6年外国語〉 We live on the earth. 〈5年国語〉 問題を解決するために話し合おう
時間 4 展開② まとめ・表現、課題の設定 (10)	◎学習発表会で中間発表を行い、次の活動計画の改善を行おう。 ○再度「笑顔あふれる町」について考え、目標を明確にする。 ○自分たち主催でどんな活動ができるかを多面的に考え、目的を達成する内容や方法を考える。 ○他のグループからの意見を聞き、よりよい発表となるよう工夫する。 ・情報の再整理・分析 ・内容の推敲 ・表現の工夫 など ○学習発表会で中間発表を行う。	思④（発表）	〈5年国語〉 大造じいさんとがん

<p>5 展開③ 情報の収集、整理・分析、まとめ・表現 (24時間)</p>	<p>◎自分達が主体となった行事を改善し、実行しよう。</p> <p>○学習発表会での保護者からのアンケートをもとに、計画の改善を図ろう。(本時3・4/24)</p> <p>○自分たちの活動を助けてくれる地域の方を探し、打ち合わせを行う。</p> <p>○地域の方と連携を取りながら、計画を作成する。</p> <p>○計画を実行するために必要な準備を行う。</p> <p>○他のグループからの意見を聞き、よりよい発表となるよう工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の再整理・分析</li> <li>・内容の推敲</li> <li>・表現の工夫</li> </ul>	<p>思③(発言, ワークシート, 振り返り)</p> <p>主②(行動観察, 振り返り)</p> <p>主③(発言, 行動観察, 振り返り)</p>	<p>〈6年社会〉 地球規模の課題の解決と国際協力</p> <p>〈6年図工〉 学校へようこそ</p> <p>〈6年家庭科〉 あなたは家庭や地域の宝物</p> <p>〈5年道徳〉 ベーターベン A(1) 希望と勇気, 努力と強い意志</p> <p>〈5年図工〉 あったらいい町 どんな町</p>
<p>6 振り返り (10時間) まとめ・表現</p>	<p>◎地域と協力して、いつも笑顔のあふれる福富町をつくるのができたかどうかを振り返ろう。</p> <p>○他グループの活動の報告を聞く。</p> <p>○他グループからの感想や実施したアンケートをもとに自分たちの活動を振り返る。</p> <p>○これまでの取組を振り返り、次年度に向けて成果と課題をまとめる。</p> <p>○自己の生き方との関連を図る。</p>	<p>知③(発言, 振り返り)</p> <p>主④(発言, 振り返り)</p>	<p>〈6年国語〉 町の幸福論</p> <p>〈5年国語〉 資料を見て考えたことを話そう</p> <p>〈5年道徳〉 親から子へ, そして孫へと</p> <p>C(17) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度</p>
<p>7 ※5年生のみ (2時間) 次年度へ</p>	<p>◎次年度の5年生へ今年度の学習の成果や課題を伝えるために、まとめよう。</p> <p>○今年度の取組内容, 成果や課題についてまとめ, 次年度へつなげる準備を行う。</p>	<p>思③・④(発言, 行動観察)</p>	

## 5 本時の目標

今後の活動について、自分たちの思いだけでなく地域や保護者のアンケート結果から自分達に求められていることをもとにし、課題解決の方法を整理・分析しながら考えを深めることができる。

## 6 本時のルーブリック

A	B
<p>☆収集した情報を分類しながら整理し、分析した結果をよりよく生かすことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この考えは企画書のここに生かすともっと目標に近づくから、〇〇というふうに変えてみようか。</li> <li>・この意見を取り入れると、こんなよさがあるよ。</li> <li>・このもらった意見は、全部は使えないけれど、この部分は自分たちに生かせる。一部だけでも、内容に加えよう。</li> <li>・△△さんの意見はこういうことかな。</li> </ul>	<p>☆収集した情報を分類しながら整理し、分析することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の意見は〇〇が多いね。</li> <li>・〇〇という考えと、〇〇という考えは似ているね。</li> <li>・〇〇と〇〇は似ているけれど少し違う。</li> <li>・保護者の考えの、この部分は企画書のここに生かせるんじゃないかな。</li> </ul>

## 7 学習の流れ

学習活動と予想される児童・生徒の反応 主な発問 (○)	指導上の留意事項 (◇)
<p>1 前時で整理したアンケート結果に対する、自分自身の考えについて振り返る。</p> <p>2 本時の課題について確認する。</p>	<p style="text-align: center;">◆努力を要する状況と判断した児童・生徒への指導と手立て</p> <p>◇明確な視点をもって改善していくために、前時まで、今後の活動に生かせるもの、生かせないものについて分けるなど、アンケート結果を整理しておく。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>アンケートをもとに、改善案を考えよう。</p> </div>	
<p>3 目指す資質・能力について考える。</p> <p>4 整理した情報を各グループで交流する。 ○自分の思い、地域や保護者の思いを取り入れたアイデアを、他のグループに伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こういうすごろくにしたいほうがいいと思う。</li> <li>・この保護者の意見は使えると思う。</li> <li>・〇〇をしてみたらいいんじゃないかな。</li> </ul> <p>5 改善案をグループで練り合う。 ○出し合ったアイデアをもとにして考えると、どんな改善ができそうですか。</p>	<p>◇目指す資質・能力を意識できるよう、本時においてどの力が関わるか全体で考える。</p> <p>◇他グループからの意見、保護者からの意見を参考にすることで、より視点を増やしながら改善点を考えられるようにする。</p> <p>◇これまでに各グループが作成した企画書を拡大して用意しておき、全員で共有しながら互いに意見を交わし合えるようにする。</p> <p>◇全てを取り入れるのではなく、自分たちの目的に合うものかどうか、それを取り入れることでどういうメリットがあるのか等、改善する視点をもた</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の人からたくさん福富の謎をもらったから、入れられそうなものをすごろくに取り入れようよ。</li> <li>・もっと色を濃く塗ったほうがいいという意見があったから、次は塗り方をしっかり調べてからもっときれいに塗ろう。</li> </ul> <p>6 改善点やその理由を明確にして立てたプランを発表し、全体で交流する。</p> <p>○改善した案について発表し、意見を交流しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと面白くなりそうと思った。</li> <li>・自分たちよりもっといいプランがあった。</li> <li>・最初のプランは自分たちの思いだけだったけれど、地域の人のおもいも入っているからこっちの方がいい。</li> </ul> <p>7 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は、いろいろな情報を整理することで新しい考えを見つけることができたから、情報を整理・分析する力が伸びたと思う。</li> </ul>	<p>せた上で、案を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆アイデアを出しやすくするために、いくつか例を挙げておく。</li> </ul> <p>☆収集した情報を分類しながら整理し、分析することができる。(思③行動観察, 企画書)</p> <p>◇練り合いを深めるために、絞ったアイデアについての改善点や、改善することで変わる効果などについてグループの考えを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆話し合いの流れをわかりやすくするために、電子黒板に流れを提示しておく。</li> </ul> <p>◇本時で身に付いた力について振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆身に付いた力について振り返りやすくするために、付けたい力を6つの中から選択させる。最初に提示した力にこだわりすぎることはなく、自分の中で伸びたと思う力を選択させる。力についての振り返りではなく、本時の活動についての振り返りでもよい。</li> </ul>
---	---

## 8 板書計画

めあて：地域や保護者の方の意見を取り入れた〇〇祭のプランを発表しよう。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を通した課題（目的）</li> <li>・アンケート結果から分析したキーワード</li> </ul>	<p>本日の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考え</li> <li>・練り合い→テンプレボードの説明</li> <li>・全体発表</li> </ul>	<p>全体交流で出したキーワード</p>	<p>電子黒板 ※PP 提示 ※グラフ等提示</p>
--	--	----------------------	------------------------------------

## 夢の実現プロジェクト

～単元における目指す児童・生徒像～

「地域に住む人とともに笑顔あふれる町づくりをしたい」という思いをもち、自分たちにできる活動を考え、実行することを通して、この町に住む人々の願いや思いに気付き、福富町をよりよくしていきたいという意識を高めるとともに、学びを自らの生き方につなげようとする児童

このような児童・生徒の姿を達成するために、以下のような工夫を行った。

### 主体性を育成する工夫

#### ・児童による課題設定、学習活動の選択

昨年度の実践を踏まえ、本当に自分たちがしたいこととして、まずはここに住んでいる人たちを笑顔にしたいと課題設定をした6年生

が5年生に、思いを伝えさせる時間を設けた。また、「地域の人と一緒に、笑顔あふれる福富町をつくる」というテーマのもとで活動を

考える際には、自分たちがやりたいことを選択させるとともに、活動内容を考える時間を十分に設けるようにした。しかし、児童が提案する内容を、全てそのまま行うという訳ではない。教師が「難しい」と感じたとしても、その内容を却下するのではなく、様々な視点から自分たちで考えさせ、考えのどの部分が生かせそうかをファシリテートしながら気付かせるようにした。



6年生が5年生へ説明している場面

#### ・短期間での表現活動

10月のアクアフェスタ（地域行事）、11月の学習発表会、1月の参観日といったように、短い間隔で表現活動をする機会を設けた。アクアフェスタでは、木工のワークショップの実施や運営の手伝い、ゴミのポイ捨て禁止を呼び掛ける活動など、考えてきたことを、地域の方と共に実際に行った。また、学習発表会では、その成果の発表や、1月のイベントに向けて保護者への呼び掛け等を行った。表現活動を行い、外部に発信する機会は、児童にとって非常に重要な学びの場であった。

#### ・アンケートの実施

アクアフェスタや学習発表会等、どの表現活動の際にも、保護者や地域の方に向けてのアンケートを実施した。コロナ禍での安全を考慮し、QRコードを用いてスマートフォン等で回答する方法により実施した。幅広い意見を得ることで、児童が学習を意欲的に進める手立てとなった。

### 協働性を育成する工夫

#### ・協働的な姿を生む明確な課題設定や場づくり

主体性を育成する工夫で述べたように、導入時に「地域の人と一緒に、笑顔あふれる町をつくる」という明確な課題を全員で共有したうえで、各グループでの取組を行った。根幹にあるテーマやイメージをしっかりと共有し、「全員でその目標を達成しよう」という思いをもたせることがねらい



アドバイスをもとに企画書を改善する児童の姿



であった。また、保護者へのアンケートから得た情報を整理する場面では、自分のグループに生かせる情報を見付けるだけでなく、他グループへ生かせる情報やアドバイスを送り合う場を設定した。

## ・ICT の活用



タブレットを活用して話し合う児童の姿

情報の収集、整理・分析する場面など、様々な活動で ICT を活用した。Google のドキュメントを用いて、グループ内で情報を共有しながら企画書を作成したり、ジャムボードを活用して情報を整理したりと、協働する場面において多く活用した。見つけた画像をすぐに共有したり、色を変え

ながらまとめたりと、ICT を活用することで短時間かつ効率よく進められた。

## 成果と課題

○導入時に、6年生が思いや意欲をもって説明したことで、「わくわくした。」「私もやってみたいと思った。」「ぜひ協力したい！」という振り返りが5年生の感想に見られた。どの場面においても、「児童がやりたいと思うこと」を大切にしながら単元を展開することで、児童の主体性の向上へ繋げることができたのではないかと考える。

○児童に実施したアンケートでは、郷土への思いについての項目で数値の上昇が見られた。「福富町について知りたい・学びたいと思う。」「福富町のために、自分ができることはしたいと思う。」の項目において、どちらも10ポイント上昇し、肯定的評価が100%であった。自分たちで何ができるかを一から考え、実際に地域へ向けて実行する体験を積み重ねた。それらの体験から、「郷土に対して自分にも何かできる」という思いや達成感に繋げることができた。また、「福富町のよさや魅力、課題などについて知っている。」という問いに対して、肯定的評価が6月は75.9%、12月は96.6%で20ポイント以上増えている。この数値の大幅な上昇は、木工を体験したり実際に祭りで取組を行ったりしただけでなく、直接地域の方に話を聞いたり、アンケートにより保護者や地域の方から様々な視点の考えをいただいたりしたことによるものではないかと考える。

●児童アンケートでは、唯一「福富町が好きである。」の数値が9ポイント下がっていた。福富町の課題に気付く場面の方が多く、歴史や文化等に触れたり、新たに魅力を発見したりする機会が少なかったためと考えられる。単元づくりの際に、福富町のよさについてもっと深める時間を設定しておくべきであった。自分たちの思いだけでなく、町のことを調べたり、地域住民から町について聞いたりする時間を明確に設定しながら単元づくりを行い、福富町自体への思いもさらに深めていきたい。

●グループ活動の際、何をしたらよいか分からない、話し合うことが難しい等、取組に対して個人差が見られた。配慮を要する児童に対するの支援として、タブレットの活用は有効であったが、支援の方策を学校全体としてさらに蓄積し、活用する必要がある。(思考ツール等)